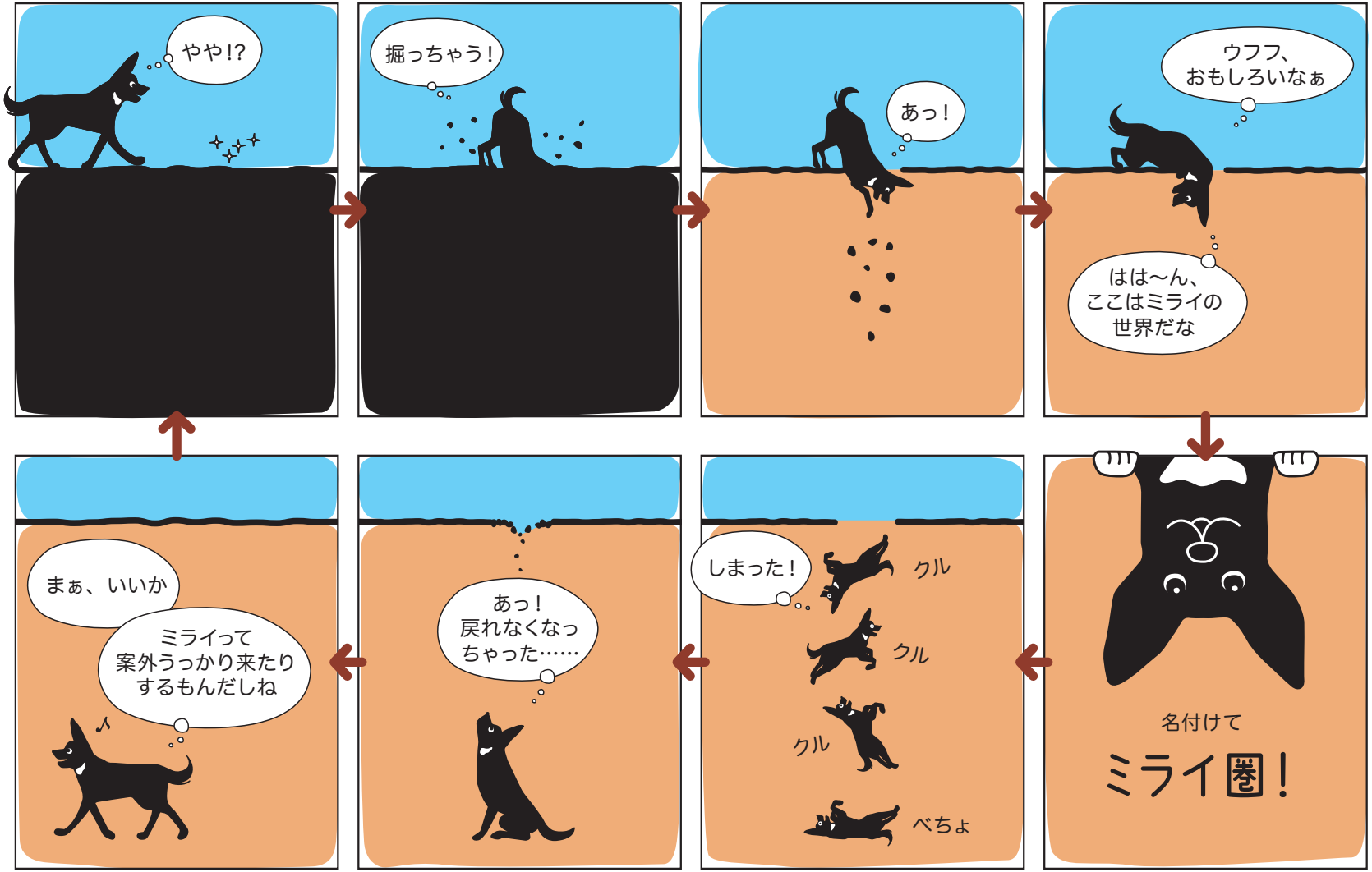
# ミライケン

うれしい未来が見つかる、
未来価値発見ニュースレター

ifs未来研究所
vol.1
July 2024

＼それゆけ！ミライ犬！(1)／




CONTENTs


**連載マンガ**
「それゆけ！ミライ犬！」

**Column #1**
ifs未来研究所 上席研究員
小原直花

**Column #2**
ifs未来研究所 研究員
中村ゆい

**Column #3**
ifs未来研究所 所長代行
山下徹也

**Column #4**
ifs未来研究所 上席研究員
浅沼小優

**information**
うれしい未来をつくるifsの活動



**発行日**
2024年7月発行

**発行**
伊藤忠ファッションシステム株式会社
ifs未来研究所
東京都港区北青山2-5-1
伊藤忠ビル17階
tel：03-3497-4000
fax：03-3497-4555
https：//www.ifs.co.jp

**お問い合わせ先**
ifs未来研究所　miraiken@ifs.co.jp

**デザイン**
東京デザイン 寺内佐知子



本ニュースレター掲載の写真、イラスト、記事の無断転載を禁じます。@伊藤忠ファッションシステム株式会社

© 2024 itochu fashion system co.,ltd. All rights reserved.

ifs未来研究所 上席研究員
小原直花

**Column #1**

# Self-D世代の記念日消費に見る「心-近」というミライ圏

上 彼女にプレゼントした手作りの香水は15,000円。彼女をイメージしながら一点ものを作れるのも魅力　下 インスタ世代でもディナークルーズは記念日イベント候補。「お誕生日」「サプライズ」検索結果の定番になっているようです

## バブル再来？いえいえ根っこが違います

Self-D世代（ifs命名／現19～23歳・Z世代に相当）は無駄な消費はしませんが消費することにはとても前向き、自分にとって大切にしたい感情を醸成してくれるものにはお金を惜しまない印象を受けます。特に友人や彼女、彼氏の誕生日など記念日の楽しみ方を聞くにつけ「なんだかやっぱりバブルの香り?」っと、バブルちょいかじり＆ばなな世代の私は5年前にインスタ世代（現24～27歳）をリサーチした時と同じ思いが一瞬頭を過りました。がしかし、金額感はバブルを彷彿とさせますが、ステイタスという枠の中でお膳立てされた舞台に乗ることをゴールとしていた40年ほど前とは明らかに異なります。舞台を活用しつつもその時間に込める特別感の創出プロセスには感心すると言いますかどこか納得させられると言いますか、この先が楽しみな世代だ！と思わせてくれるのです。

## 消費モチベーションはモノ・コトとの関わり ≧ 自己満足

あるSelf-D世代男性が彼女の誕生日祝いに使った総額は15万円。椿山荘のビア＆ビュッフェをメインに翌日はディナークルーズを予約、プレゼントには手作りの香水を贈ったそうです。「自分も興味があって、もちろん彼女と楽しめそうなものを詰め込みました」と、相手を喜ばせたいという思いは今も昔も変わりません。ただ、その時間に全集中したいという思いはより高まっているように思います。如何せんプレゼントは手作りですから。王道は日頃のつぶやきから察した「欲しそうなもの」を贈ることですが、「単なるモノではなく、コト要素が乗ることで魅力が増す」と、一緒にリングを作ったこともあるとか。インスタ世代は「彼女の誕生日には友人に手伝ってもらいホテルの一室を風船で飾り…」「記念日にリムジンを借り皆でおしゃれして…」など、インスタ映えを意識した見た目のインパクトでエンタメ感を高める演出に注力していました。その点Self-D世代は自分の気持ちを上乗せできる余地のあるモノ・コトを選び、その場の思い出だけに留めない持続的な価値形成を意識しているのです。

日常は取捨選択の連続で客観指標を拠り所にしたくなることが増えています。だからこそ思い入れ領域には積極的に関わっていきたいという思いを持つのかもしれません。有機的なつながりが感じられる心が近いと思える状態、そんな「心-近」というミライ圏に注目しています。

© 2024 itochu fashion system co.,ltd. All rights reserved.

ifs未来研究所 研究員
中村ゆい

**Column #2**

# 多様が前提の時代に必須となる「心理的安全」というミライ圏

自分の部屋、車の中、コンサート、公園… 場所は違っても求められるのは過度な気遣いのいらない状態

## 余計な気遣いのいらない場を志向するSelf-D世代

「アウトレットは一周すれば何かに出会えるし、友達とのドライブの目的地としても最適。いろんな系統やブランドの店が揃っているので自己開示のきっかけになって仲良くなれる」「新宿御苑は都会のど真ん中にある公園なのに、自然がたくさんあって、友達と内緒の話をするときも、カフェより話が響かないので話がしやすいし、だらだらできるのでよい」今年1月に実施したSelf-D世代（現在19～23歳）へのインタビュー調査で、「魅力に感じる場所」について尋ねたところ、こんな回答が返ってきました。全体として、お出かけや旅行を想定した場所選びでは、人と一緒に過ごす時間をいかにストレスなく楽しめるかという関係性づくりにとってのメリットを意識。また、「一人で過ごす」「誰かと過ごす」両方のオケージョンで自然のある公園や史跡などが挙がり、周りを気にせずリラックスして過ごせることを評価していました。

## コトは誰もが取り残されず参加できることが大切

人に対して余計なストレスを感じずに過ごせる場を求める傾向は、イベントやエンタテイメントを楽しむ姿勢にも通じているようです。インタビューでは「魅力に感じるコト」についても尋ねたのですが、ダーツの魅力を「運動神経に関係なく誰でも気軽に楽しめる」点に見出したり、Vtuberのファンイベントでは後方座席からでも催しを楽しめるように配慮されているかをチェックするなど、どんな人も分け隔てなくフラットに参加できることが、コトを取り入れたり継続したりする際の大事なポイントになっている様子。また、アイドルやアニメ、小説など好きなコンテンツをフィルターに旅行先などを編集して楽しむスタイルである「聖地巡礼」も、単に趣味を深く楽しむだけでなく、行き先を決める際の気遣いの手間を減らす方法としても捉えられていました。

Self-D世代はダイバーシティ＆インクルージョンに対する注目が高まり始めた時代に消費自己裁量権獲得時期に突入したこともあり、多様を無理なく維持するための他者への配慮に対する感度が高い人たち。ここまで見てきた傾向からは、モノ・コト・サービスに対して過度な気遣いをせずに気楽にいられる「心理的安全」を求めていることがうかがえます。Self-D世代に限らず生活者全体として、暮らし活のあらゆるシーンにおける多様性への解像度が高まる今、送り手にとって「心理的安全圏」の提供は必須となりそうです。

© 2024 itochu fashion system co.,ltd. All rights reserved.

ifs未来研究所 所長代行
山下徹也

**Column #3**

# 「Think Global」なミライ圏

**左** 北欧はこの時期白夜を迎えていました。夜の10時を過ぎても短い夏を惜しむかのように公園やカフェは賑わいが続いていました

**右** ヘルシンキでは連日イスラエルのガザ侵攻に関するデモにより、5,000Km離れた異国への訴えが地響きのように街を覆いつくしていました

## 官民学連携サステナビリティ国際会議

6月にフィンランドのヘルシンキ大学で開かれた「サステナビリティリサーチ＆イノベーションコングレス2024」で講演する機会ありました。コレクティブなインパクトには事業起ち上げのフェーズから官民学が連携しエコシステムを作り上げることの重要性を要旨とし、新たに立ち上げた新事業と推進母体となる新会社の設立について発表してきました。
昨年12月に慶応義塾大学蟹江教授と共同で応募し、3月に通過の連絡を受けての参加ですが、今年で4回目となる本会議は、世界中から集まるサステナビリティリーダーや大学研究者が熱量を感じる機会でありました。

## 分断の中、連鎖の夜明け前

この時期、EUでは長引くインフレと各地で起こる紛争から、政策への批判が報道されていた時期。厳格さを増す環境政策が光熱費や生活必需品の価格を高騰させ、市民は目に見えない成果に嫌気がさしているそんな地合いでもあり、連日若者たちが駅前や大学の広場に集まり、紛争や人権侵害への決起デモが行われていたことに心が揺さぶられたのを覚えています。
現在世界では約30の紛争が進行中であり、犠牲を大きく被るのは行き場のない低所得者層。単にイデオロギーの衝突と片付けられず、気候変動の影響による資源や生存圏の奪い合いとも見て取れます。
一方で世界では叡智が結集され新しい技術や枠組みが生まれています。特に最近はクライメットテック系への投資が拡大し、トランスフォーメーションを後押しする時期が急速に早まる予見もでてきました。
今回の講演で紹介した私たちの新プロジェクトも、社会的意義を持つ消費形態を実現させるものとして、市場形成のボトルネックを解消する仕組だからこそ反響を得られたと考えています。
その背景には、生活者が行動に移したいと思う気持ちとそれに応える商品や取り組みがありながら、ソリューションやメカニズムがなかったことにあると考えています。

## 共通の未来、グローバルシチズン

「エコシステム」が生まれる原動力は「人の心」にあると感じています。
決して出会うことがなくても、共通のビジョンをもつ人々が世界中にいることを実感した道程でありました。
「Think Globalな人が集まるミライ圏」皆様と一緒に作っていきたいと考えています。

© 2024 itochu fashion system co.,ltd. All rights reserved.

ifs未来研究所 上席研究員
浅沼小優

**Column #4**

# 注目の ライフスタイルシフト 「ナイトタイム」というミライ圏

比較的、気温が低くなる、夕暮れ時や夜が未来の中心的活動時間帯と目されています

こんな「夜」をめぐるニュースがありました。一つは、「今年1月、香港観光局は地元の人々に18時以降に使える100香港ドルの食事券を提供」、もう一つは、「タイはバンコク、プーケットなどのナイトクラブの閉店時間を午前2時から4時に延長」。そのニュース性に最初は気づかなかったのですが、続くこんなトピックを聞いてハッとしました。「オランダは夜間の文化と経済の強化を計画、120万ユーロ(約2億円)を投資」、「ロンドンの日中の経済成長率は2%である一方、夜間は2.2%、年間収益は660億ポンド(約13兆円)」。どうも、様々な拠点で「夜の時間帯」がアツいらしい、と徐々にわかってきました。

ただ、その背景は深刻です。地球温暖化で昼間が暑すぎるため、仕事も遊びも涼しい時間にずらす必要があるとのこと。以前から夜の消費が盛んなアジア圏は、この「ナイトタイムエコノミー」を政府としてさらに支援し、夏の陽の長いヨーロッパ圏は、気温が下がる夕方からの時間を楽しむ文化を拡大しようとしています。

もちろん、これまでも夜の時間帯を楽しむ文化はありました。でも、これまでとの違いは、カクテル、レイヴといった派手な消費だけではないという点です。コロナ禍を経て人々は、地味だけれど好奇心を満たしてくれる楽しみを意識的に探すようになり、健康を考えた真面目なナイトライフに心惹かれているとか。このニーズに応えるサービスもさまざまです。ロンドンのSETはアーティストを招いてインク作りやレターロッキング(特殊な手紙の封印方法)といったアートワークショップを22時から深夜0時まで開催しています。シカゴのタコス専門店「Cariño」(カリーニョ)では、22時からタコスのおまかせコースをスタート。「お夜食」ではありません。クオリティの高い深夜の食事スタイルなのです。

日本は実は、この夜型ウェルネス消費の先進国です。24時間営業のネットカフェチェーン、Hailey'5 Caféは、デザートバーからDIY、ダーツなど、深夜もヘルシーに楽しめる場所として海外でも紹介されています。スパ ラクーアは23時半まで営業し、温泉からウェルネス志向のフードメニューを揃えてリラックス体験を提供しています。

この時間帯に着目すると、睡眠、食事、装い、美容のあり方、レジャー、ワークアウト、コミュニティ、サードスペースに関わる空間デザイン、医療から物流にいたるまでどのような変化がみえてくるでしょうか。

ウェルネス重視のナイトタイム消費はまさに注目のミライ圏です。

© 2024 itochu fashion system co.,ltd. All rights reserved.

## Hydro Flask（R）のカスタムボトルで ヤマメの稚魚約1万匹の放流を支援

ifsがマーケティング・ブランディングサポート業務を行っているHydro Flask（R）は、公共緑地の保護活動を支援し、人々が自然と共により健康的で幸せな生活を送ることを促進する「PARKS FOR ALL」活動を行っています。
日本においても、自然との共生の象徴として東京にサクラマスを復活させる新規プロジェクト「TOKYO SAKURAMASU」のサポートを行い2024年3月23日（土）には約1万匹の稚魚を放流しました。
Hydro Flask（R）の総販売代理店のアルコインターナショナル株式会社とともに、「カスタムボトルを製作することで、ボトル1本につき、10匹のサクラマスの稚魚の放流をする」プログラムを構築しました。Hydro Flaskのカスタムボトルを製作しTOKYO SAKURAMASUへ賛同いただける企業様や、協賛や共創をいただけるパートナー企業様を募集しております。

オリジナルのプリントができるカスタムボトル

## 「ifs Sustainable Futures Lab」の活動 地域と企業と緑の関係を視察・体験＆今後

2023年7月に発足した法人向け会員コミュニティサービス「ifs Sustainable Futures Lab（iSFL）」。「未来に向けたゆたかさを育む」をテーマに現在は約60社様にご加入いただいており、ジャーナル・イベント・カンファレンスなどのコンテンツを通して学びや交流を提供しています。
先日7月5日には「植物と地域コミュニティと企業が共生するまちづくり」をテーマに、これからの地域コミュニティの在り方と、そこに企業がどうかかわっていったらよいのかを学ぶイベントを、シモキタ園藝部様、株式会社フォルク様のご協力のもと行いました。
当日は炎天下の中の開催でしたが、実際に足を運んでの視察や体験、セミナーに会員様間の対話など盛りだくさんの半日となりました。

座学の後、シモキタ園藝部を見学

### iSFL今後の予定とお客様からの声

今後は7月下旬にジャーナル「住まいの空間とサステナビリティ」、8月下旬にカンファレンス「生活者とともに進めるサステナブルアクション」、9月にもイベントを予定しています。学びや会員様同士の対話を通して、自社の課題の把握や次のアクションへのヒントとなるようなコンテンツをお届けできるように鋭意企画中です。

毎回、いろいろな角度からサステナビリティを考える機会を頂いてありがたいです。（インフラ業界）

サステナビリティやサーキュラーエコノミーの活動をされている様々な方面での事例が聞けるのがありがたいです。特に過程を知れることが大変勉強になります。（建材メーカー）

会社の外のゆるいつながりが、各々の日々の業務のエネルギーになる。普段接点のない業種の方と話し、考えを交換できる貴重な機会だと感じています。（アパレル系メーカー）

皆様のリアルなビジネス熱量に触れる機会となり、今後もお題にとらわれず参加していきたいと思います。（専門商社）

お問い合わせ先：伊藤忠ファッションシステム株式会社　info.corp@ifs.co.jp

© 2024 itochu fashion system co.,ltd. All rights reserved.